

令和元年度

東京都公立大学法人
業務実績評価書

(案)

東京都地方独立行政法人評価委員会

I 全体評価

令和元年度は、第三期中期目標期間の3年目として、中期目標達成に向けて中期計画に基づいた年度計画を順調に実施しており、着実な業務の進捗状況にある。

●優れた点・特色ある点

- 東京都立大学では、大学院博士後期課程の活性化に向けて、平成29年度より大学院キャリア科目や博士研究員制度の導入など様々な取組を推進した結果、定員充足率が平成28年度の0.72から令和元年度の1.04へと大きく改善した点が高く評価できる。
- 東京都立産業技術大学院大学では、研究科再編等の社会のニーズに応える教育改革の取組が順調に進行していることに加え、ロールモデル集の活用、企業訪問、ウェブによる情報発信、単位バンク制度を活用した入試などの学生確保の取組が功を奏しており、志願者が平成28年度（4月入学）の0.94倍から令和2年度（4月入学）の1.67倍へと大幅に増加している点が高く評価できる。
- 東京都立産業技術高等専門学校では、情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、新たに専攻科プログラムを開始するとともに、履修学生が全国的なコンテスト等で優秀な成績を収めている点や、航空技術者育成プログラムについて、一期生7名を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決まった点が高く評価できる。

●改善すべき点

- 東京都立大学で発生した大学院入試問題漏えいについては、極めて憂慮すべきことであり、再発防止に努める必要がある。既に詳細な原因分析を行い、再発防止策を策定しているが、公平・公正な入学者選抜の実施に向け、取組を徹底されたい。
- 情報セキュリティ事故が複数の機関において発生したことは由々しき問題である。メール誤送信防止ソフトの導入やセキュリティ研修の実施など、セキュリティ対策を徹底されたい。なお、セキュリティ研修の未受講者に対しては、アカウントの停止などペナルティを含む厳格な対処により、対策の実効性を担保されたい。

1 総評

- 令和元年度の東京都公立大学法人（以下「法人」という。）の業務は、順調に進められた1年であったと評価する。また、令和2年度からの大学・法人の名称変更を見据え、各大学・高専のプレゼンス及び認知度の更なる向上に向けて取り組んだ。
- 各高等教育機関はそれぞれの特色を活かしながらバランスよく教育、研究及び社会貢献活動を精力的に行っており、特に、都政に貢献し得る各種連携事業や都民に還元する機会となるリカレント教育が活性化していることは公立大学・高専ならではの特色といえる。

【東京都立大学】

- 東京都立大学（以下「都立大」という。）では、大学院博士後期課程の活性化に向けて、平成29年度より大学院キャリア科目や博士研究員制度の導入など様々な取組を推進し

た結果、定員充足率が平成 28 年度の 0.72 から令和元年度の 1.04 へと大きく改善した。

- 科学研究費補助金の新規採択率の向上に向けて、組織的に申請書類の作成支援等を行ったことにより、新規採択率（「挑戦的研究」を除く。）は、平成 30 年度の 27.6%から令和元年度の 34.1%へと大幅に向上している。
- プレミアム・カレッジを開講し、学習意欲の高いシニアへ体系的なカリキュラムを提供している。また、令和 2 年度の本学入試では、募集人員を大きく上回る出願を得るとともに、2 年目も学び続けられる専攻科に本科修了生 53 名のうち 36 名が応募するなど、プレミアム・カレッジに対する期待や満足度の高さが伺える。
- 都立大の強みや特色を有する国際的研究拠点の形成を目指す研究センターについて、外部資金獲得額が平成 30 年度から大きく減少し、中期計画の目標として掲げた金額からも大きく下回っている。外部資金の獲得は研究を充実・発展させていく上で極めて重要であることから、目標達成に向けた取組の強化を望む。

【東京都立産業技術大学院大学】

- 東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）では、研究科再編等の社会のニーズに応えた教育改革の取組が順調に進行していることに加え、ロールモデル集の活用、企業訪問、ウェブによる情報発信、単位バンク制度を活用した入試などの学生確保の取組が功を奏しており、志願者が平成 28 年度（4 月入学）の 0.94 倍から令和 2 年度（4 月入学）の 1.67 倍へと大幅に増加している。
- グローバルに活躍できる人材の育成に向け、産技大の特色である PBL 教育をアジア諸国の大学等と連携して実施し、大学関係者のみならず政府機関や研究所が参加する会合で政策提言を行った。

【東京都立産業技術高等専門学校】

- 東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）では、情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、新たに専攻科プログラムを開始するとともに、履修学生が全国的なコンテスト等で優秀な成績を収めている。また、航空技術者育成プログラムについては、一期生 7 名を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決まった。
- 産技高専の学生を主体とする 70 名の学生が参加して実施された 2 つの海外体験プログラムでは、現地日系企業での研修機会を設けるなど、プログラム効果を高める取組が行われており、グローバル人材を目指す学生のモチベーション向上が図られている。

【法人の業務運営等】

- 法人の業務運営においては、大学・法人の名称変更を契機としたプレゼンス及び認知度の向上に向けて、ソーシャルメディアを積極的に活用して都民等が各大学・高専を身近に感じられる工夫を行うことや、「100 歳大学」の取組の一環として特別講演会を開催

することなど、様々な取組を推進した。

- 多様な働き方の実現や共通業務の効率化に向けて、業務の可視化、定型業務の見直し、テレビ会議システムの活用、会議のペーパーレス化等に取り組んでいる。今後こうした取組が、各種の業務運営において一層活かされていくことを期待する。
- 都立大で発生した大学院入試問題漏えいについては、極めて憂慮すべきことであり、再発防止に努める必要がある。既に詳細な原因分析を行い、再発防止策を策定しているが、公平・公正な入学者選抜の実施に向け、取組を徹底されたい。
- 情報セキュリティ事故が複数の機関において発生したことは由々しき問題である。メール誤送信防止ソフトの導入やセキュリティ研修の実施など、セキュリティ対策を徹底されたい。なお、セキュリティ研修の未受講者に対しては、アカウントの停止などペナルティを含む厳格な対処により、対策の実効性を担保されたい。

2 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望など

- 令和2年度からの大学・法人の名称変更に当たり、令和元年度はその準備とPRが行われたが、これで、長年の課題であるプレゼンス及び認知度が飛躍的に向上したわけではない。今後も引き続き、教育研究に関する情報発信の取組を強化していくことが望まれる。
- 社会経済が厳しい状況にある今、在校生の支援に当たっては、卒業生に対し、様々な形の支援を幅広くお願いすることが望ましい。母校に思いを寄せる卒業生と将来を夢見る在校生の結びつきを強化する取組を期待する。
- 新型コロナウイルス感染症の影響下で、グローバル化に関する指標をはじめ、達成が困難な中期計画の目標があるが、現場の教職員に過度な負担をかけることなく、学生と教職員の健康と安全安心を最優先に据えた法人運営に取り組みたい。
- 法人が運営する2大学1高専の資源や特長を活かして、シナジー効果を発揮するためには、法人部門のリードが欠かせない。そのため、各校職員によるワーキンググループを立ち上げて今後の連携の方向性を協議する試みなどは、継続して実施されたい。

Ⅱ 項目別評価

【項目別評価】

① 業務実績の検証

項目別評価を実施するに当たって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。検証に当たっては、年度計画及び中期計画に記載されている各項目の業務の実績について、中期計画の進捗・達成状況及び成果・効果を確認するとともに、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

② 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗・達成状況及び成果・効果を大項目ごとに1～5の5段階で評価した。

【年度評価】（評定・評語・説明）

評定	評語	説明
1	年度計画を大幅に上回って実施している。	顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	年度計画を上回って実施している。	年度計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは年度計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	年度計画を順調に実施している。	達成度が概ね100%程度と認められるもの
4	年度計画を十分に実施できていない。	年度計画を計画通り実施できていないもの 実績・成果が年度計画を下回っているもの
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。	公立大学分科会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、中期計画を前倒しして実施するなど、戦略性が高く意欲的な年度計画を積極的に実施するなどの、その取組に注目すべき内容が認められるもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった年度計画について達成したもの等

年度計画の大項目ごとの評定及び評定説明は、以下のとおりである。中期計画の項目に沿って記載する。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
1	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
2	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育改革を推進する取組の強化	1
3	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 学修支援環境の整備 ◇ 教育の質の改善	3
4	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
5	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

○【大項目1】TA制度について、配置人数の拡大を図るとともに、教員に対するeラーニングやアンケートの実施により、実態把握や効果の検証を行った。

- 【大項目1】大学院分野横断プログラムが順調に進捗し、超伝導理工学及び生体理工学の両プログラムから合計13名の修了者を輩出した。
- 【大項目1】経営学研究科及び理学研究科において、早期履修制度を採用し、34名の学部生が大学院の授業科目を早期履修し、33名が都立大の大学院に進学した。
- 【大項目1】アクティブ・ラーニングを推進するため、教育改革推進事業（学内提案分）の成果報告会を開催した。また、成果報告会の様子を学生広報チームが取材し、学生目線による教育改革の取組成果が大学公式ウェブサイトを通じて学内外に発信された。
- 【大項目1】現場体験型インターンシップについて、履修した学生アンケートの満足度は大変高く、企業等が行う多くの採用活動目的のインターンシップとは異なる特徴を持った充実したプログラムが組まれている。
- 【大項目1】ルーブリック評価について、基礎ゼミナールのモデルルーブリックを令和2年度から活用できるように準備するとともに、新たに理学部生命科学科、都市環境学部環境応用化学科及び大学教育センターの3部局においてもルーブリック評価を取り入れた特色ある取組を開始した。
- 【大項目2】教学IRについては、学内の運営委員会や部局からの依頼を受けて分析を行い、データ分析に基づく教育改善に取り組んでおり、十分に機能している。
- 【大項目2】大学院キャリア科目の設置による多様なキャリアパスへの意識付け、博士研究員・専門研究員制度の導入による研究支援など、大学院博士後期課程の活性化に向けて精力的に取り組む、博士後期課程の定員充足率は1.04に達している。
- 【大項目3】FD関連セミナーの参加者が昨年度に引き続き300人を超えており、全学的に取組が推進されている。
- 【大項目4】ボランティアプログラムについて、継続実施により参加する学生の層が厚くなるとともに、専門職員や教員のサポート体制を充実させることで、魅力的なプログラムへと発展している。
- 【大項目4】遠隔操作によるパソコンノートテイク及び支援を受けている学生に対するアンケートを初めて実施する等、障害のある学生等への支援を充実させている。
- 【大項目5】志の高い多様な学生を確保するため、全募集人員の30%を多様な選抜方法により確保することを計画し、令和3年度入学試験から実施する準備を進めた。
- 【大項目5】大学説明会について、前年度より参加者数が3,000人増える中、日時や会場の調整によってキャパシティーオーバーに対応しながら円滑に説明会を実施し、入試制度等の情報提供を広く行った。

（更なる充実が期待される点）

- 【大項目1】1年次の外部英語試験受験率については、受験率100%を目指すとともに、目標スコアの設定等、英語学力の底上げを図る取組を期待する。
- 【大項目4】学生定期健康診断の受診率は87.9%まで向上したが、未受診の学生が健康診断の意義を十分に理解できるような働きかけを更に強化し、中期計画の目標の受診率90%の達成に努めることを期待する。
- 【大項目4】OBOGネットワークの登録者数は増加しつつあるが、登録者数の更なる増加に向け、広報活動を通じた母校との繋がりの強化や、学生を支援する体制作りなどを期待する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目 番号	取組事項	評定
6	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	3
7	研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目6】基礎研究のレベルが高いことを反映して、被引用度トップ10%論文割合は過去5ヶ年平均で11.9%と高水準で、国際共著論文の割合も44.7%と中期計画の目標の33%を大きく上回っている。
- 【大項目6】EurekAlert!への英文投稿や、オープンユニバーシティにおける高校生向け講座の開設など研究成果等の多様な発信に取り組んでいる。
- 【大項目7】科学研究費補助金の新規採択率の向上に向けて、組織的に申請書類の作成支援等を行ったことにより、新規採択率(「挑戦的研究」を除く。)は、平成30年度の27.6%から令和元年度の34.1%へと大幅に向上している。
- 【大項目7】全学の女性教員比率は中期計画の目標の20%を上回る20.6%に達している。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目7】研究センターの外国人研究者比率は、平成30年度の14.3%から令和元年度の19.2%へと向上しているが、中期計画の目標の30%に向け、更なる取組を期待する。

(改善すべき点)

- 【大項目6】研究センターの外部資金獲得額が、平成30年度から大きく減少し、中期計画の目標からも大きく下回っている。外部資金の獲得は研究を充実・発展させていく上で極めて重要であることから、目標達成に向けた取組の強化を望む。

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
8	都政との連携に関する目標を達成するための措置	2
9	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目8】施策提案発表会の開催、都職員向けの研究シーズ集の試行版作成等、様々な取組を推進し、連携事業件数は平成30年度の101件から令和元年度の171件へと大幅に増加した。また、東京都下水道局と共同研究等を推進するための包括連携協定を締結した。
- 【大項目8】都民に対する障害者スポーツの理解促進に向けて、体験型のイベントを積極的に開催するとともに、体験教室ごとに主な対象者層を設定するなど工夫を行うことにより、多数の参加者を得た。
- 【大項目9】プレミアム・カレッジを開講し、学習意欲の高いシニアへ体系的なカリキュラムを提供している。
- 【大項目9】プレミアム・カレッジの令和2年度の本科入試では、募集人員を大きく上回る出願を得るとともに、2年目も学び続けられる専攻科に本科修了生53名のうち36名が応募するなど、プレミアム・カレッジに対する期待や満足度の高さが伺える。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目8】東京都の管理職候補者研修の受託は都立の大学として重要な役割のひとつである。経済経営学部だけではなく、他学部の教員も研修講師として都職員の人材育成に関わることが望まれる。

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
10	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の国際通用性 ◇ 学生の海外派遣の拡充 ◇ 外国人留学生の受入れ	3
11	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 海外の大学等との連携 ◇ 都市外交を支えるネットワーク形成 ◇ キャンパスの国際化	3

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目10】国際バカロレア入試実施3年目で初めて2名の志願者(募集人員2名)があり、1名が合格となった。</p> <p>○【大項目10】海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。</p> <p>○【大項目10】都市外交人材育成基金を活用し、優秀な留学生40名を大学院生として受け入れている。</p> <p>○【大項目11】海外の95大学から参加者が集う五大陸国際学生シンポジウムが開催された。都立大の学生との交流のほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設等の視察を含む都立の大学ならではの充実したプログラムであった。</p>		
<p>(更なる充実が期待される点)</p> <p>○【大項目10】海外留学等派遣者数について、平成30年度と比較して、特に長期、中期の人数が減少している。留学に対する更なる支援を期待する。</p> <p>○【大項目10】受入留学生については、人数の目標のみならず、受入国の多様化や、受入留学生の生活満足度等、質の向上にも取り組むことを期待する。</p> <p>○【大項目11】外国人教員比率は、中期計画の目標の5%に対し、3.6%にとどまっている。グローバル化に向けた取組の一環として、外国人教員の採用が効果を上げる分野への採用を期待する。</p>		

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
12	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
13	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備 ◇ 東京都立大学及び東京都立産業技術高等専門学校との連携	3
14	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の評価・改善	2
15	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3

16	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	1
----	-----------------------	---

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目12】企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新しい学位プログラムを導入するため、現在の2専攻体制から1専攻3コース体制への研究科再編を行った。 ○【大項目12】産技大の特色としてのPBL教育について、成果発表会を通じて、学生へ還元するとともに、社会に対して情報発信を行っている。また、検討部会を継続して実施することで、PBL教育に関するPDCAサイクルを強化している。 ○【大項目12】アクティブ・ラーニングを導入している科目が86.7%に達した。 ○【大項目13】第2期 enPiT、AIIT 起業塾など、他大学と連携した事業を通じて、産技大の知見や資源を有効に活用した特色ある事業が行われている。 ○【大項目14】FDフォーラムへの教員参加率が100%であること、学生に対して授業評価アンケートを実施していること等、組織としてPDCAが有効に機能している。 ○【大項目14】授業評価アンケートで全授業の評価が平均4.37となり、平成29年度から3か年連続で前年度を上回る高評価を得た。 ○【大項目15】1年生全員に担任教員が面談し、様々な指導を行っている。 ○【大項目15】ブレンディッド・ラーニング(録画講義と対面講義)が機能し、授業評価アンケートによると授業に対するモチベーションや理解度が上昇した。 ○【大項目16】ホームページの全面リニューアル、研究科再編の特設ページ開設、駅における交通広告等、戦略的、効果的な広報活動が行われた。その結果、大学院説明会への参加が410名と開学以来最多となるとともに、新専攻となつての初の入試において、十分な志願者数を確保できた。 ○【大項目16】単位バンク制度が順調に運営され、単位バンク生からの正規入学者が増加している。 		
--	--	--

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
17	研究に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目17】学際的な研究所を更に活用し、研究成果の社会への還元を積極的に進め、社会のニーズに応えるとともに、産業界との連携も活かして研究を進展させていくことを期待する。 		
--	--	--

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
18	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
19	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目18】都や区市町村等との連携による講座やイベント等を通じて、中小企業振興等の政策課題に対するシンクタンク機能を発揮している。 ○【大項目19】学外も対象としたAIIT マンスリーフォーラムの開催、修了生を継続して支援するための修了生コミュニティの運用など、継続的に修学できる場を多面的に整備している。 ○【大項目19】起業のための高レベルの知識・スキルの修得を目指す AIIT シニアスタートアッププログラムを開講した。 <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目18】より広範な区市町村との連携を期待する。 ○【大項目19】AIIT マンスリーフォーラムについて、回数・参加者が、平成29年度以降、減少傾向にある。専門職コミュニティ形成促進のためにも、今後の取組に期待する。 	
--	--

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
20	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目20】グローバルに活躍できる人材の育成に向け、産技大の特色である PBL 教育をアジア諸国の大学等と連携して実施し、大学関係者のみならず政府機関や研究所が参加する会合で政策提言を行った。 ○【大項目20】産技大の持つアジア諸国のネットワークを活用し、八丈島で APEN の総会及びワークショップを開催し、島しょ振興をテーマに様々な知見を共有した。 	
---	--

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
21	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	1
22	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育システムの継続的な改善 ◇ 他の教育機関等との連携	3
23	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の質の評価・改善	3
24	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2

25	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2
----	-----------------------	---

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目21】情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、新たに専攻科プログラムも開始し、本科のプログラムを修了した専攻科生に対しても継続した高度な学びの場を提供している。また、本コースの履修生が、全国的に行われたコンテスト等で優秀な成績を収めている。 ○【大項目21】航空技術者育成プログラムについて、一期生7名を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決定した。 ○【大項目21】令和3年度のJABEE受審に向けて、学習・教育到達目標に対する各教育プログラムのカリキュラム設計方針を決定し、教育の質保証の特色を明確にした。 ○【大項目21】実習設備の整備や科目の増設・外部講師を迎えての研修実施など、アクティブ・ラーニングの推進に向けて取り組んでいる。 ○【大項目22】都立工業高校からの編入学生受入れのための接続プログラムを着実に実施し、編入学生3名の受入れを決定した。 ○【大項目23】大学改革支援・学位授与機構の認証評価を受け、情報セキュリティ教育、ものづくり教育、国際対応を育む教育及び高い就職率・進学率について好評価を得た。 ○【大項目23】教員研修について、初任者研修、昇任者研修及び管理職研修で100%の参加率を得ている。個別課題研修も82%と中期計画の目標の80%を達成している。 ○【大項目24】課外活動経費を一部助成する未来工房プロジェクトは申請件数が増加しており、また、提案公募方式による課外活動支援を受けた学生が大会等で活躍するなど、課外活動が活性化している。 ○【大項目24】学生の就職率・進学率は非常に高く、キャリア支援体制が機能している。 ○【大項目25】入学志願者は、推薦入試、一般入試共に例年より増加しており、積極的な広報活動の成果が表われている。 ○【大項目25】女子学生確保に向けた様々な取組が推進されており、女子在学生自身による学生生活紹介や相談会など、学生主体の取組が行われている。一般入試において、女子の志願者数、入学者数とも拡大し、志願者数については、開校以来、最多の人数を確保できた。 ○【大項目25】ターゲットに応じた戦略的な広報活動として、ホームページをリニューアルするとともに、志願者がアクセスしやすいSNSで積極的な情報発信を行っている。 <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目24】今後、女子学生の進路指導を充実させることも含め、キャリア支援体制の更なる強化を期待する。 		
---	--	--

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
26	研究に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目26】特別研究期間制度を利用する教員が、平成30年度及び令和元年度は1名であったことについて、中期計画の目標である年間4名を達成できるよう、対策を講じ 		
--	--	--

ることを期待する。

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 番号	取組事項	評価
27	都政との連携に関する目標を達成するための措置	2
28	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目27】荒川区教育委員会及び地域の中学校との連携協働により、車いす利用者のための「環境快適マップ」を完成させた。
- 【大項目27】中学生向けに情報セキュリティ等の勉強会を開催し、定員を超える応募があった。中学生の頃から情報セキュリティ等を学ぶ機会を提供することにより、情報セキュリティ等に関する関心を高め、将来のキャリア形成を支援している。
- 【大項目27】東京都や外郭団体職員を対象に情報セキュリティに関する意識や知識の向上を図る研修を実施し、定員を上回る参加があった。
- 【大項目28】地域のものづくり技術者のスキルアップのため、若手技術者支援の講座を実施したところ、定員を超える応募があり、講座修了後のアンケート結果は満足度、充実度、活用度いずれも概ね好評であった。
- 【大項目28】疑似マルウェア感染体験システムを開発し、品川区、警視庁との連携で、中小企業向け「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を実施し、サイバーセキュリティに対する意識向上に貢献した。

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 番号	取組事項	評価
29	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目29】産技高専の学生を主体とする70名の学生が参加して実施された2つの海外体験プログラムでは、現地日系企業での研修機会を設けるなど、プログラム効果を高める取組が行われており、グローバル人材を目指す学生のモチベーション向上が図られている。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目29】2つの海外体験プログラムについて、海外で活躍できる技術者の養成を強化する観点から、より多くの学生が参加できるプログラムへと発展させることが望ましい。

IV～VII 法人運営全般に係る目標を達成するためにとるべき措置

大項目 番号	取組事項	評定
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
30	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	3
31	教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置	3
32	事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置	3
V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
33	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置		
34	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置		
35	その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【大項目30】公益通報など法的な対応が必要となる案件の窓口を一本化し、コンプライアンスへの対応体制の強化を図った。 ○【大項目31】2大学1高専において、それぞれの状況に応じた教育研究組織の見直しが行われている。 ○【大項目31】2大学1高専の職員によるワーキンググループの立上げ等を通じて、各校の新たな連携の在り方に関する今後の中長期的な目標と取組案を取りまとめた。 ○【大項目32】多様な働き方の実現に向けて、各部署の職員による参加型ワークショップ等を開催し、各職場の業務をお互いに理解した上で取組を推進できるよう工夫している。 ○【大項目32】新財務会計システム、施設予約システムの構築により、事務の効率化を図った。 ○【大項目33】支給実績に基づく執行見込額を踏まえ、執行残額が最小限となるよう予算編成を行ったことで、人件費予算額を1億円以上削減した。 ○【大項目33】寄附者顕彰制度、寄附金受付システムの導入などの環境整備により、寄附金の件数及び金額が増加した。 ○【大項目34】プレゼンス向上に向けて、ソーシャルメディアを積極的に活用し、都民等が各大学・高専を身近に感じられる工夫を行うことや、「100歳大学」の取組の一環として特別講演会を開催することなど、様々な取組を推進した。 ○【大項目34】卒業生・同窓会等との連携を強化するため、学長、校長、副学長等が全国各地の地方同窓会支部総会やホームカミングデー、学園祭で積極的に交流を深めた。 ○【大項目35】日野キャンパスの新施設について、多摩地域における産学公連携の拠点となるための機能等を反映した基本設計を実施した。 ○【大項目35】省エネルギー対策について、各キャンパスのエネルギー消費量の把握に

よるエネルギーマネジメント、学生や教職員に対する省エネや節電等の意識啓発等により、平成30年度と比較して、電気使用量、電気料金とも削減を図った。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目31】2大学1高専の新たな連携の取組について、実施へ向けたステップが進むことを期待する。
- 【大項目32】多様な働き方や法人内共通業務の効率化などの取組が一層推進されることを期待する。
- 【大項目33】大学の規模から考えると、寄附金の件数及び金額は十分とは言えない。名称変更を契機として、更なる取組の推進を期待する。
- 【大項目33】学内の施設貸出について、引き続き、手続きの利便性向上を図るなどして、有効に施設が活用されるよう取り組まれない。
- 【大項目34】卒業生からの広く厚い支援は、大学の魅力向上につながるため、同窓会とも協働し、卒業生との連携強化に取り組まれない。
- 【大項目35】研究コンプライアンス研修の教員の受講率が98%であるが、今後、100%を目指して取り組まれない。

(改善すべき点)

- 【大項目30】都立大で発生した大学院入試問題漏えいについては、既に詳細な原因分析を行い、再発防止策を策定しているが、公平・公正な入学者選抜の実施に向け、取組を徹底されたい。
- 【大項目35】情報セキュリティについては、メール誤送信防止ソフトの導入やセキュリティ研修の実施など、セキュリティ対策を徹底されたい。なお、セキュリティ研修の未受講者に対しては、アカウントの停止などペナルティを含む厳格な対処により、対策の実効性を担保されたい。

令和元年度 東京都公立大学法人 業務実績評価書 (案)

項目別評価 評定一覧

(1) 評価結果

評定		令和元年度		(項目数内訳)			
段階	評語	項目数	割合	都立大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	3	9%	1	1	1	0
2	年度計画を上回って実施している	11	31%	3	4	4	0
3	年度計画を順調に実施している	21	60%	7	4	4	6
4	十分に実施できていない	0	0%	0	0	0	0
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0	0	0
計		35	100%	11	9	9	6

(2) 評価項目

I 東京都立大学 (11項目)

大項目	取組	評定
	教育関連	
大項目1	①教育内容及び教育の成果等	2
大項目2	②教育の実施体制等 (教育改革を推進する取組の強化)	1
大項目3	③教育の実施体制等 (学修支援環境・教育の質の改善)	3
大項目4	④学生への支援	3
大項目5	⑤入学者選抜	3
	研究関連	
大項目6	⑥研究水準及び研究の成果等	3
大項目7	⑦研究実施体制等	3
	社会貢献関連	
大項目8	⑧都政との連携	2
大項目9	⑨社会貢献等	2
	グローバル化関連	
大項目10	⑩教育の国際通用性等	3
大項目11	⑪海外の大学等との連携	3

II 東京都立産業技術大学院大学 (9項目)

大項目	取組	評定
	教育関連	
大項目12	①教育内容及び教育の成果等	2
大項目13	②教育の実施体制等 (産業界や他大学等との連携等)	3
大項目14	③教育の実施体制等 (教育の評価・改善)	2
大項目15	④学生への支援	3
大項目16	⑤入学者選抜	1
	研究関連	
大項目17	⑥研究	3
	社会貢献関連	
大項目18	⑦都政との連携	3
大項目19	⑧社会貢献等	2
	グローバル化関連	
大項目20	⑨グローバル化	2

III 東京都立産業技術高等専門学校 (9項目)

大項目	取組	評定
	教育関連	
大項目21	①教育内容及び教育の成果等	1
大項目22	②教育の実施体制等 (教育システムの継続的な改善等)	3
大項目23	③教育の実施体制等 (教育の質の評価・改善)	3
大項目24	④学生への支援	2
大項目25	⑤入学者選抜	2
	研究関連	
大項目26	⑥研究	3
	社会貢献関連	
大項目27	⑦都政との連携	2
大項目28	⑧社会貢献等	3
	グローバル化関連	
大項目29	⑨グローバル化	2

IV～VII 法人の業務運営等 (6項目)

大項目	取組	評定
	業務運営	
大項目30	①組織運営の改善	3
大項目31	②教育研究組織の見直し等	3
大項目32	③事務の効率化・合理化等	3
	財務内容	
大項目33	④財務内容の改善	3
	自己点検・評価及び情報の提供	
大項目34	⑤自己点検・評価及び情報の提供	3
	その他業務運営	
大項目35	⑥その他業務運営	3

(参考) 平成29年度及び平成30年度業務実績評価結果

段階	評語	平成30年度		(項目数内訳)				平成29年度		(項目数内訳)			
		項目数	割合	都立大	産技大	産技高専	法人運営	項目数	割合	都立大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	3	9%	1	1	1	0	2	6%	1	0	1	0
2	年度計画を上回って実施している	10	29%	5	3	1	1	11	31%	3	5	3	0
3	年度計画を順調に実施している	22	63%	5	5	7	5	21	60%	7	4	5	5
4	十分に実施できていない	0	0%	0	0	0	0	1	3%	0	0	0	1
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0
計		35	100%	11	9	9	6	35	100%	11	9	9	6